

ひとなる

発行：白川町教育委員会

－「白川を愛し、たくましく心の

あったかい子を育む美濃白川」－

みんなで楽しく全力でやいきる 運動会を通して学ぶ!

<保育園・小学校の運動会から>

9月中旬から10月中旬にかけ、多くの保育園、小学校で運動会・体育大会が行われました。保育園では、園児が先生と一緒にダンスをしたり、力いっぱい走ったりする姿、小学校では、指先までそろったソーラン節、スムーズなバトンパスのリレー、応援リーダーを中心とした熱のこもった応援、学校独自の取組である一輪車等を見ることができました。また、放送や器具などの係活動において、児童が中心となって、会・大会がスムーズに進むように役割を果たしきる姿がありました。

昨今、学校では、競技内容や運営の仕方（環境整備を含む）について、教師が決めたり、昨年度、実施したことをそのまま行ったりするのではなく、「自分たちの願い」の実現に向けて、どんな競技にすればよいのか（最終的には昨年度と同じになっても…）、どんなことをすればよいのか（グラウンドの石拾いも自主的に実施等）等、自分たちで考え、相談しながら、取り組む姿があります。体だけでなく、頭や心も精一杯働かせた運動会・体育大会が各学校で行われています。



【白小】ヨーイドンです。



【蘇原小】小雨の降る中大いに盛り上がりました。



【黒川小】いよいよ本番!!



【佐見保・佐見小】佐見保は3人ですが、「ふるさと佐見大運動会」園児、小学生、中学生、地域みんなで創りあげました。



【白保】デカパンはける?!



【黒保】うまく踊れるかな



【北保】祖父母と対決!!



【光の子保】小学生も混ぜって

佐見小学校の閉会式ではインタビュー形式で、保育園児や小学生、中学生に感想を聞いていました。事前に考えておいた原稿通りではなく、1日を通して感じたこと、仲間への感謝等をそれぞれの年代に応じて、自分の言葉で語る姿が見られました。園児の発言に大きな拍手が送られていました。

困難を乗り越える力を付ける!! 大人に過保護にされていないか?

「ほら、危ないから高いところに登っちゃダメ!!」「そんなことしたら大変!!」と、口すっぱく言ったこと(言われたこと)はありませんか? つい危険を避けさせようとするのは親心。子どもに怪我や失敗はつきものだと分かってはいても、つい危険から遠ざけてしまいます。しかし、子どもは、ずっと安全な場所にいる訳にはいきません。そのうち、自分の力で困難や危険を乗り越えていかなければならないのです。今回は、「子どものうちに体験し、身に付けておきたい生き方、考え方」について考えてみます。

【私が経験した数十年前の小学校での一場面から】

ステージから飛び降りる、跳び箱から飛び降りる等、高いところから飛び降りる遊び(体育の授業)があります。私は、低学年のころ、うまくできたことに味をしめ、もう少し高いところから飛び降りてみようと考え、肋木の一番上から飛び降りました。足が「ジーン」となり、しばらく動けなくなったことがあります。また、逆に高いところ(大きなジャングルジムみたいな所)に登り、怖くなり、後ずさりし、登ってくる高学年の子どもに白い目で見られながら、登ったところをおずおずと降りたことがあります。

→高いところに登ったことがなく、「高いところは怖い」という感覚がもてないまま大きくなると、命の危険にさらされることもあるかもしれません。このように、小さいころに日々の生活の中で危険を体感し、成長した後により大きな危険を招かないようにすることを身に付けることは大切なのだと、当時は身をもって体験しました(理屈は、大人(教師)になってから理解しました)。

また、ある方の講演会で次のようなことを話されていました。

「子どもがすべき危険なこと」という演題において、「子どもにあえて危険なことをやらせて、安全な環境を自分でコントロールする術を学ばせるべき」という話をしてみえました。講師の先生(以後、先生)は、商品くるんであるビニールフィルムに、「窒息注意」の警告が書かれていることを嘆き、安全ゾーンの範囲を狭めることで、身の周りの世界との接し方を学ぶ貴重な機会を遠ざけていると危惧してみえました。

【講演の一部から】

もちろん、子どもたちを危険から守ることは必要です。しかし、それが過保護になってしまえば、子どもたちの危険に対する判断力が養われず、社会の責任が果たせません。私たちがすべきなのは、未知のもの(よくわからないもの)と、本当に危険なものとの区別が付けられるよう、子どもたちに学ばせることです。

そして、先生は、子どもに「力量」を付けさせることがもっとも重要だと述べていました。先生が言う「力量」とは、「現実世界で困難な問題に遭遇した時に、うまく対処できる力」とのことでした。「力量」がない人は、簡単で分かりやすい対策が見つからないとすぐにあきらめてしまう傾向があり、最初の失敗でくじけてしまう人が多いとのことでした。

【力量が高い人の特徴】

- ・ 問題の前後関係を調べ、必要な道具と素材を探し、いくつかの対策を考えることができる。
- ・ 障害を乗り越える力があり、失敗を教訓として役立てることができる。
- ・ 物をいじくり回して仕掛けを探るくせがある。
- ・ よく質問し、答えが得られないときは自分で答えを見つけようとする。
- ・ 深くはなくても広範な知識をもっている。
- ・ 自分に自信をもっている。

講演会で先生は子どもの頃にさせてみたいこと的具体例として

- ・ 家電品を分解
- ・ 約束を守って焚火
- ・ ナイフの活用
- ・ レジ本に逆らう 等をさせてみて!! と言っていました。

みなさん(子どもたち)は、高い所から飛び降りること以外の困難、例えば「テストの点数や成績」「仲間同士のトラブル」「家庭での親子の関わり」「部活動(クラブ)で決めた目標をなかなか乗り越えられないこと」等に対して、どう対応していますか? 「現実世界で困難な問題に遭遇した時に、うまく対処できる力(力量)」をきちんと身に付けているのでしょうか?

私自身、教師、親として、子どもが乗り越えるべき困難を避け、今(だけ)困らないように過ごさせていないか? 将来に必要な本物の力を付けさせているか? 自分の姿勢を今一度考えたいと思った講演会でした。

11月の子どもたちの主な行事

- 11月1~3日 ふるさとふれあい展
- 11月3日(月) 読書フェスティバル、白川地区公民館まつり
- 11月14日(金) 佐見小学校「白川町指定公表会」兼「県へき地・複式教育研究大会」
- 11月16日(日) 黒川公民館まつり、佐見歌舞伎
- 11月22日(土) 蘇原地区公民館まつり